

「人権が尊重される授業づくりの推進に向けて」
人権が尊重される授業づくりの具現化に向けて（例）

	自己存在感を持たせる 支援を工夫する。	共感的人間関係を育成する 支援を工夫する。	自己選択・決定の場を 工夫して設定する。	その他
① 導入の場面	<ul style="list-style-type: none"> ○欠席等で授業に参加できていなかった子供が安心して参加できるように配慮する。 ○子供の「なぜだろう」「不思議だ」「知りたい」などのつぶやきを大切に 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習を確認しながら、活躍したり頑張ったりした友達の姿を振り返らせる。 ○友達との疑問や興味・関心を共感的に捉えさせる。 ○様々なつぶやきを全体に紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習を振り返りやすいような準備を行う。（掲示物、ノート等） ○友達と前時の学習の振り返りを交流しながら、本時の学習に対する意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時までの学習の流れが把握しやすいように、本時のポイント（流れ）を掲示する。 ○教材・教具等の提示の工夫を行い、子供の知的好奇心を高める。
② 予め決めてや学習課題を設定する場面	<ul style="list-style-type: none"> ○子供が明らかにしたくなる学習課題を設定する。 ○予め決めてや学習課題を自分ごととして捉えるよう、提示方法等を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全員で単元のゴールの姿を共有しながら、めあてや学習課題を設定する。 ○全員がめあてや学習課題の達成に向けて挑戦することが大切であることを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な考え方に会えるようなめあて設定をコーディネートする。 ○たくさんの課題解決方法をみんなで考え、自分に合った見通しを持ち、取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○だれもが意識できるように、めあてを目立つように板書する。 ○対話の必要性のある課題設定をする。
③ 個人で課題に取り組む場面	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習を振り返り、解決方法の見通しを持たせる。 ○全員が自分の考えを持ってるように支援方法を工夫する。 ○子供の思考を見守る。 ○子供の思考に即して授業展開を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のペースで取り組めるような活動の場作りを行う。 ○子供同士で、一人一人の学習状況を理解しながら学習活動を進める雰囲気をつくる。 ○日頃から解決できない時は、誰かが助けてくれるという安心感を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な教材・教具を準備し、選択の幅を持たせる。 ○自分の力に応じて活用できるような資料（ヒントカード等）を事前に準備しておく。 ○解決できたら、他の考え方に挑戦させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の子供の様子に気を配り、必要に応じた支援を行う。 ○見方・考え方を働かせるための言葉かけを行う。
④ ペアやグループで活動する場面	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを表現することが苦手な子供に寄り添い、安心して表現できるように支援する。 ○ペア（グループ）トークのルールを設定し、安心して活動できるようにする。 ○グループ内でどの子供も活躍できるように場の設定を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○うなずきや相づち等を行いつつ、しっかりと聴くことで発表者が安心して発表できるように伝える。 ○自分と異なる考えを認め、相手の立場に立って考えられるように支援する。 ○日頃から、友達と学び合う大切さを感じさせる場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な考えに出会うように、多くの友達の考えに触れる時間と場を設定する。 ○自由な発想ができる場面を設定する。 ○互いの考えを伝え合うことで、他者の考えを知り、自分の考えを広げ深めることができることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ペアやグループ内での子供の様子に気を配り、必要に応じた支援を行う。 ○見方・考え方を働かせるための言葉かけを行う。
⑤ 全体で考える場面	<ul style="list-style-type: none"> ○安心して活動できるように、拍手、賞賛、励ましの言葉かけ等の支援方法を示す。 ○意図的に指名しながら、多くの子供たちの考えを価値づけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な考えに出会えるような場面を設定する。 ○多様な考えから学ぶ大切さを実感させ、自由に発言できる雰囲気をつくる。 ○自他の考えのよさに気付くことができるような言葉かけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の考えとの類似点や相違点に気付く発問を行う。 ○新たな考えに触れることで、自分の考えをより根拠のあるものとして深めることができることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子供の考え方を基に、積極的なコーディネートを行う。 ○見方・考え方を働かせるための言葉かけを行う。
⑥ まとめ・振り返りの場面	<ul style="list-style-type: none"> ○「分かった」「できた」「もっとやってみよう」が生まれるよう言葉かけを工夫する。 ○自分が頑張ったことやできるようになったこと等を振り返らせる。 ○学習に取り組む態度を認め、評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○分らなかつたことが分かるようになることの素晴らしさを学級全体で感じることができるようにする。 ○みんなの力で解決したという達成感を持たせる。 ○子供の考えを生かしたまとめ・振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の言葉で自分の学習を振り返らせる。 ○多様な考えを聞くことができるように、振り返りを交流する時間を設定する。 ○家庭学習につながるような展開を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の流れやポイント等、子供の思考過程が見える板書を工夫する。 ○次の学習や実生活につながるよう言葉かけを行う。
⑦ その他（全体を通して）	<ul style="list-style-type: none"> ○配慮を必要とする子供一人一人の状況に応じた支援体制を充実する。 ○ICTを活用し、子供の学習状況やニーズに応じた学習を支援する。また、試行錯誤する過程を通して、自分の考えを整理させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達や教師等との対話を通して、自己の考えを広げ深めることができる素晴らしさに気付かせる。 ○ICT機器を活用し、グループで考えを整理したり、学級に考えを伝えたりする場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○知識を相互に関連付けることにより、より深く理解する事ができることに気付かせる。 ○インターネット等を活用し新しい情報に触れさせる。 ○ICTを活用し、多様な表現を支援する。 ○自分の学びを蓄積させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○安心と信頼にあふれ、高め合う学級をつくる。 ○子供一人一人の実態把握に努め、一人一人につけたい力を明確にする。